

## 会議録

会議の名称	子ども子育て審議会児童館等再編成専門部会（平成30年度第1回）
開催日時	平成30年6月29日（金曜日）午後7時から8時30分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎5階 503会議室
出席者	<p>【部会員】 林部会長、大橋部会員、尾崎部会員、島崎部会員</p> <p>【事務局】 子育て支援部長 保谷、子育て支援部参与兼子育て支援課長 飯島、児童青少年課長 原島、児童青少年課長補佐 國府方、保谷柳沢児童館長 増田、児童青少年課児童青少年係 菅原、高橋</p> <p>（欠席 蓮見部会員）</p>
議題	<p>議題1</p> <p>（1）児童館等再編成方針のこれまでの経緯について</p> <p>（2）児童館等再編成方針骨子（案）について</p> <p>（3）専門部会の今後のスケジュールについて</p> <p>議題2 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 西東京市子ども子育て審議会児童館等再編成専門部会員名簿</p> <p>資料2 西東京市公共施設等総合管理計画（抜粋）</p> <p>資料3 児童館等再編成方針骨子（案）</p> <p>資料4 児童館等再編成方針骨子（案）の主な要望・意見</p> <p>資料5 平成30年度子ども子育て審議会 開催スケジュール</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1. 児童館等再編成方針のこれまでの経緯について （資料2に基づき事務局から説明）</p> <p>○事務局： 平成28年9月に策定した「西東京市公共施設等総合管理計画」を踏まえ、今後の児童館、学童クラブの再編成について骨子（案）を作成し、平成29年度の第1回子ども子育て審議会に提出した。その後、骨子（案）に対する要望・意見を関係団体からいただいたが、それ以後は検討が中断していた。</p> <p>○林部会長： ここまでの説明に対し、質問や意見はあるか。</p> <p>○島崎部会員： 以前、東伏見小の敷地内に児童館分室があったが、老朽化と学校の工事の関係で取り壊しになった。そのときは、保谷柳沢児童館を利用してほしいとの説明だったが、分室の代わりに出前児童館をやってもらったので助かった。今、児童館に通っている子が困らないような方法を考えてほしい。</p> <p>○尾崎部会員： 学童クラブの定員超過対策として、計画では小学校の余裕教室の活用が掲げられているが、小学校の生徒数が増えている状況では、教室は空かないのではないか。放課後子供教室や出前児童館もあるが、常設の児童館・学童クラブが存在するというのは重要なことなので、安易に廃止にはしないでほしい。</p> <p>○林部会長： 定員超過を解決するための方策は何か考えられるか。</p>	

○尾崎部会員：

学童クラブが定員超過となっているのは、市全域ではなく、地域によって偏りがある。先ほど言ったように、学校内への移設は難しいと思うが、そうすると学校敷地外に学童クラブを作るしかないのではないか。

児童館については、来れる子は来ていると思うが、児童館を必要としているのに家から遠いなどの理由で来られない子のニーズにも答えられるように、地理的な部分も含めて考える必要がある。

○林部会長：

南部地域は学童クラブのニーズが高いのか。

○尾崎部会員：

向台小の区域の超過率が高いと思う。

○事務局：

向台第一から第三までの3箇所の学童クラブを設置しているが、157%から166%と超過率が高くなっている。定員超過対策について教育部局と調整しているが、学校内に移設するのが一番良いと考えている。

○尾崎部会員：

将来的には、すべての学童クラブを学校内に移設するのか。

○事務局：

子どもの安全面からも学校内がよいと考えており、できるところから順次移設していきたい。

○大橋部会員：

この部会で検討するのは、児童館の再編成だけか。児童館と学童クラブの両方が議題なのか。

○事務局：

西東京市の児童館にはすべて学童クラブが併設されている。児童館を再編成するに当たっては、まず児童館内の学童クラブを整理し、児童館本来の機能を発揮できるようにする必要があると考えている。

○林部会長：

先日、南部地域の児童館を見せてもらったが、学童クラブの子どもによる児童館利用が多いことにより、児童館が活発になっている面もあれば、一般の子どもの児童館利用を圧迫している面もあると感じた。児童館の機能を充実させるためには、学童クラブに関しても併せて考える必要があると思う。一気に難しいが、徐々に紐解いていかなければならない。

## 2. 児童館等再編成方針骨子（案）について

（資料3に基づき事務局から説明）

○事務局：

骨子（案）は、児童館等の課題や本来の役割、課題に対応するための方針の骨子を記載したものである。方針としては、今後、児童館を機能別に「地域型」、「特化型」、「基幹型」の3つに再編成し、課題に対応していきたいと考えている。

○林部会長：

この骨子案は、どこかで確定しているものなのか。

○事務局：

昨年度の第1回審議会で一度説明させていただき、関係団体の意見を伺ったが、その後の検討は中断していた。

○林部会長：

資料4に記載されている関係団体の要望・意見は、反映されているのか。

○事務局：

反映している。

○尾崎部会員：

学童クラブ連絡協議会からは、資料4に記載されたもの以外にもいくつか要望・意見を出したと記憶している。資料では、要望・意見に対する市の回答は「検討してまいります」となっている部分が多いが、今も検討中なのか。

○事務局：

特化型児童館の設置場所や、どの児童館を統廃合するのかなど、具体的にはまだ決まっていない。再編成方針の中では、今後の方向性を定めたいと考えている。

○林部会長：

この部会の中で、どうしていくべきかを議論したいという趣旨だと理解している。なお、議論に際しては、先ほど説明のあった公共施設等総合管理計画を踏まえる必要があると考える。計画と異なる結論を出すこともあり得なくはないが、それには納得がいく説明を考えないといけない。

○尾崎部会員：

計画を前提として検討しなければいけないということか。

○林部会長：

この計画は、どこまでオーソライズされたものなのか。

○事務局：

議会等にも説明し、オーソライズされている。

○林部会長：

再編成方針では、児童館だけではなく学童クラブについても考えなければならず、また今後の児童数の推移も考慮する必要がある。難しい課題だが、どこかで結論を出さなければいけない。

○尾崎部会員：

南部地域の統廃合の必要性については理解はしているが、統廃合をする段階で一時的でも学童クラブがなくなるのは困る。切れ目なく学童クラブが運営されるというのが前提である。

○島崎部会員：

東伏見小のときは、校庭内に代わりの建物ができたので、途切れずに学童クラブが続けられた。また、学童の子が学校に行っている間は、幼児の広場などのイベントを行なうなど有効だったと思う。南部地域の児童館が古いのは確かだが、学童クラブの子や児童館を利用している子が困らないようにする必要がある。

また、児童館の建物だけでなく、職員と親との関係も大切だ。職員との関係で救われる親もいるので、その点も考えながら統廃合しないといけない。

○林部会長：

中高生の居場所に関して、大橋部会員はどう考えているか。

○大橋部会員：

保谷中は部活が盛んで、塾などに通っている生徒もいるため、児童館を利用している

子は比較的少ない。昔は、課題のある子が児童館に通っていることが多かったが、最近はそのような子もあまりいない。

武蔵野市などでは、コミュニティーセンターが中高生も含め地域ぐるみでイベントを行ったり、高齢者と中高生と一緒に囲碁などをすることもできる。費用面の問題もあり難しいとは思いますが、いろいろな利用者のニーズにあった複合型施設があれば望ましい。

また、コストを考えると、今後、すべてを行政が抱えるのは困難だと思う。民営や第三セクターのような運営方法も考えていくべきではないか。

○林部会長：

西東京市では、民営の児童館は特化型の2館だけで、他は公営と聞いている。今後、工夫していくことは重要だ。

○大橋部会員：

学童クラブについては、小学校内や隣接地にあるのが理想的だと思う。例えば小学校の近隣の公園などが使えればよいが、近隣住民の納得が得られない場合もある。

○林部会長：

中学校内に学童クラブを設置することは考えられないか。

○大橋部会員：

中学校の中に学童クラブがある例は聞いたことがない。部活動との関係で難しいと思う。将来的に小中一貫校ができれば、それもあり得るかもしれないが。

○大橋部会員：

地域型児童館の取組に「ランチタイムの実施」とあるのは、子ども食堂のようなことを考えているのか。

○事務局：

そこまでは予定していない。夏休み中などの子どもの孤食を防ぐのが目的である。

○尾崎部会員：

ランチタイムの対象者は、学童クラブを利用できない小学校高学年の子なのか。

○事務局：

小学校1年生以上を対象に実施している。

○尾崎部会員：

参考資料によれば、ひばりが丘と下保谷の児童センターの中高生の利用者数は、他の児童館より1桁以上多い。このことはどう分析しているのか。

○事務局：

両方とも特化型児童館で、中高生用の設備が整備されているためと考えている。

○尾崎部会員：

西原北児童館や田無柳沢児童センターは、なぜ中高生の利用が少ないのか。

○事務局：

西原北児童館は施設が手狭なため、また田無柳沢児童センターは学童クラブの子の利用が多いためと考えている。

○林部会長：

田無柳沢児童センターも先日見せてもらったが、確かに学童クラブの子どもでいっぱい、中高生が入りづらいのではと感じた。

下保谷児童センターなどは、近隣の市から来ている利用者もいると聞いている。南部地域にも特化型児童館を作るのはよいことだとは思いますが、どこに作るのか、学童クラブ

をどうするか、など難しい問題もある。

○事務局：

他に質問や意見があれば、後日でもよいので事務局にメール等で連絡してほしい。

### 3. 専門部会の今後のスケジュールについて

(資料5に基づき事務局から説明)

○事務局：

12月までにあと4回、検討部会の開催を予定しているので、よろしくお願ひしたい。

○林部会長：

今後、再編成を検討するに当たり、ヒアリングなどで保護者や子どもの意見を聴くことも必要だと考えるが、方法や時期について意見はあるか。

○島崎部会員：

利用者が少ない児童館には、実際に行ってみたいと思う。先ほども言ったが、建物と共に人的な面も大事だと考える。子育て広場を行なったり、お祭りを地域を巻き込んで実施している児童館もあるが、運営形態が変わってそれができなくなるとすれば残念だ。

○林部会長：

ヒアリング方法について、次回の検討部会で意見をもらいたい。時期については、子ども条例の制定との兼ね合いもあるが、同じく次回で検討したい。

○林部会長：

以上で、本日の会議は終了とする。

閉会